

# プログラムマネジメントの 現場からの応答①

2012年3月27日

政策評価相互研修会 第5回

科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

アソシエイトフェロー 重藤さわ子

# 研究開発領域・プログラムの運営マネジメント活動 【全領域共通】

領域の目標を共有し、個々のプロジェクトを導くための取り組み

■（領域目標達成のための）研究開発プロジェクトの募集および選考

■領域・プログラム全体会議の開催（領域合宿※）

※1泊2日。当領域ではH23年度は桐生市で開催。

■研究開発プロジェクトの点検（体制の見直し）

「センターでは、総括が強力なリーダーシップを発揮してマネジメントを推進します。総括は研究開発プロジェクトの状況を常に把握し、必要に応じて計画の修正を指示したり、研究区開発期間中の統廃合を行うこともあります。」

■アウトリーチ活動、シンポジウムの開催（年1回程度）

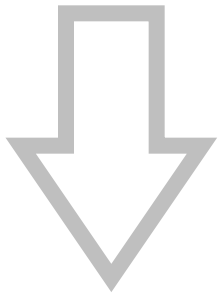
■研究開発プロジェクトの現地訪問（サイトビジット）

# 関連する政策担当者への働きかけ 体制構築準備中 【領域独自の取り組み】



これまで...

領域総括や領域関係者のネットワークに頼った細々とした連携  
や働きかけ(政策担当者への説明等)



2月の領域会議にて:政策の現場の危機意識は非常に高い。むしろ、プロジェクトの方が時代遅れではないか、と心配することもある。関連する政策担当者をつなぎ、積極的に情報交換し、領域成果をインプットしていくべき。

(某ADより)

## ■政策提言の作成・発信

(H23年度研究計画からプロジェクト成果に基づいた政策提言  
ページを追加→HPアップと領域としての発信へ)

■各省庁の政策担当者との勉強会の設置(まずはインフォーマルから)

# RISTEXとしてできること (勝手な提案)

これまでの複数のプログラム運営の経験をふまえ、

社会の問題から構成する  
問題解決型研究開発プログラム  
「RISTEX方式」(案)

のガイドブック作成と発信をしては？

まずは知名度を上げることから…

例) Guidance for Completing the Program Assessment Rating Tool (PART), Office of Management and Budget, March 2005

国立科学・技術・芸術基金 (NESTA・イギリス), Mass Localism, 2010

# 社会的課題解決と研究開発

## 研究開発の課題

- **研究開発のプログラム化だけでは社会課題解決につながらない**

研究開発～実装への壁はプログラム単体では乗り越えられない  
組織的サポートが必要

## 省庁縦割り構造の課題

- **社会問題解決から始めると、複数の上位政策目標(複数省庁にまたがることも)**

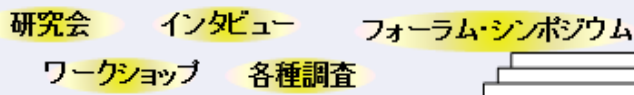
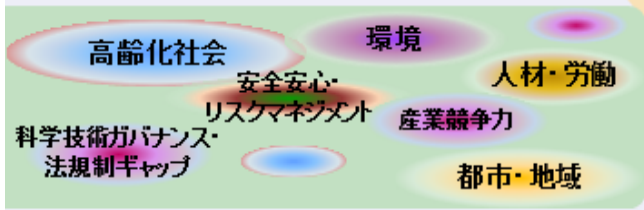
「政策→施策→プログラム」の対応に必ずしもならない  
他省庁との重複・競合も起こりやすい

- **したがって、他省庁への成果の働きかけ方も難しい**

どこにどのように、どのようなフェーズで働きかけるべきか  
本来は重複・競合よりは、「連携」が望ましい

# 社会技術研究開発センターの活動サイクル

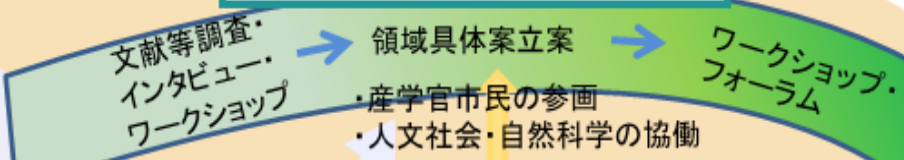
## I. 社会における取り上げるべき具体的問題の探索・抽出



社会的・公共的価値の創出



## II. 研究開発領域の設定

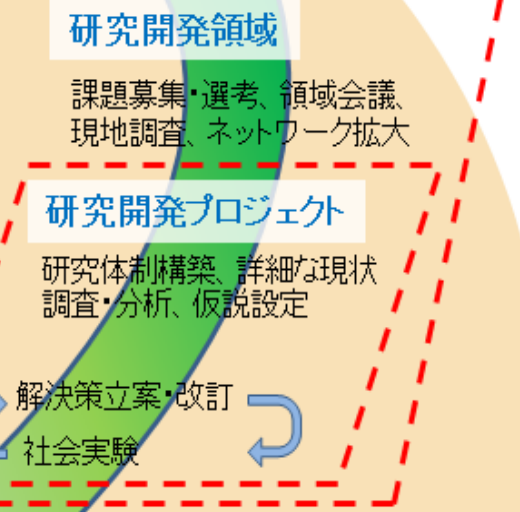


国等の方針  
事前評価  
領域設定、領域総括決定

NPO 産業 ...  
研究者  
人文社会・自然科学  
シーズ・科学技術の新たな知見



## III. 研究開発の推進



- 研究開発領域
- コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン
- 地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会
- 犯罪からの子どもの安全
- 科学技術と人間
- 問題解決型サービス科学 研究開発プログラム
- 「政策のための科学」 研究開発プログラム

なかなか超えられない大きな壁

## V. プロトタイプの実行支援

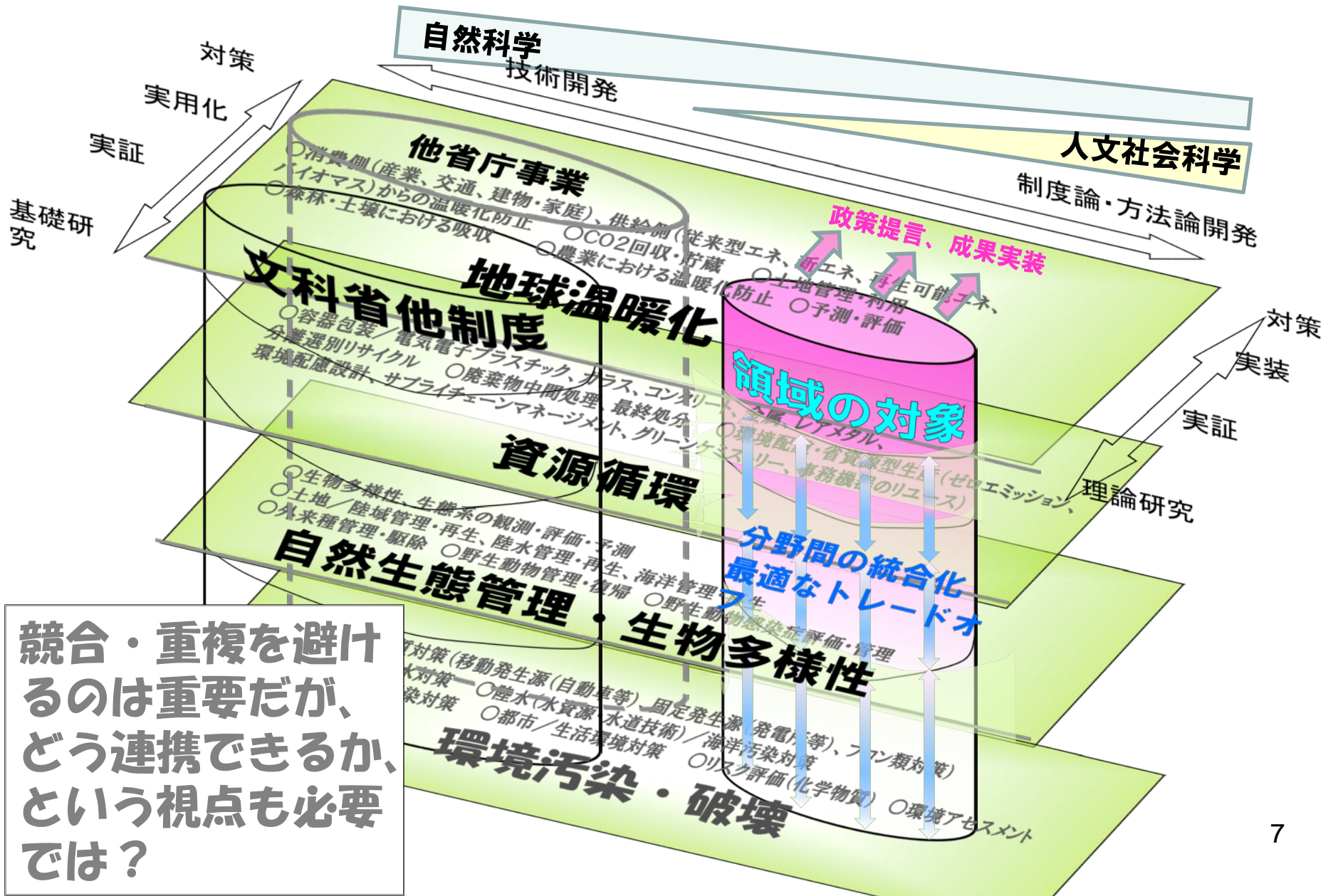
研究開発成果  
実装支援プログラム

IV. プロトタイプの実行の提示  
方法論、適用条件(地域特性、制約)、担い手育成・確保、技術の要素・社会の受容・合意形成、受け手の規模...

中間・事後評価

追跡評価

# 領域の対象と必要性の明確化



競合・重複を避けるのは重要だが、  
どう連携できるか、  
という視点も必要  
では？